

◆◆◆あめふり◆◆◆

■「あめあめ ふれふれ かあさんが
じゃのめで おむかい うれしいな」

童謡「あめふり」の一節。

北原白秋作詞，中山晋平作曲。大正14年の作品です。

若い方は，もしかしたらご存じないかも知れません。

「じゃのめ」とは蛇の目，和傘の一種である

「蛇の目傘」のこと。今では高級品です。

小学生のころ。

この歌を口ずさみながら登校していた記憶があります。

雨降りの日。黄色い傘をさして，長靴をはいて。

当時、昭和40年代はまだ「舗装道路」という言葉がありましたが，道路というものの多くは舗装されておらず，雨が降るとそこかしこに水たまりができたものでした。

小学生の私は，雨が落ちているのに傘もささず，その水たまりに入っていきます。

長靴には泥水が浸入。靴の中がもうぐちゃぐちゃになって，しばらくすると

体温で泥水が温まって。それがだんだん心地よく感じるようになっていたものでした。



■今でも，傘をささない子どもがいるものです。

けっこうな雨脚。手には傘。おうちの方が風邪をひかないようにと持たせてくださったのでしょうか。しかし。

そんなことはお構いなし。髪を，服を，カバンを濡らしながら笑顔で歩いてくる子どもたち。

「せっかく傘あるのになんでささないの？」

風邪ひくからさしなさい！」と注意しながら、

そう言えば自分も傘ささなかったな、濡れてるんだけど
なんか楽しかったなあ、と在りし日の自分の姿に重ねながら
子どもたちを見つめている私。

ほどなく我に返り，あわてて注意を続けるのでした。

週末の予報は晴れ。明日から十月です。

